

平成29年度第1回まち・ひと・しごと創生協議会

日時：平成29年8月29日（火） 15：00～17：00

場所：きらきら21 ホール

出席委員：別紙のとおり

□開会

～副市長挨拶～

1. 松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

～事務局説明 省略（松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び改訂資料参照）～

2. 人口動態及び転入・転出アンケートについて

～事務局説明 省略（資料2、資料3参照）～

（議長）

伊万里に出ていく人が多い。中でも高齢者の転出が多いが、要因はなにがあると思うか。

（A委員）

医療関係で、大きな病院が松浦市にはないので、伊万里市の病院に行かれているという面はある。

（議長）

高齢者が住まいを求めて伊万里市に行っているという面についての意見は。

（B委員）

介護の面から言うと、特別養護老人ホームには要介護3以上の人しか入れず、それ以下の方はグループホームなどに入所することになるが、松浦市には絶対数が足りていない。

（議長）

そのような方が入居できる施設が松浦にはない。展開できていないことについて、どういったことが考えられるか。

(B委員)

採算がとれない。それがまずひとつ大きな要因で、大きな企業などでバックボーン的な、やっつけていけるような大きな企業が松浦市にはない。また、福祉法人には自主財源がない。

(C委員)

結婚を機に転出し、伊万里市の方に出ていかれる。

その理由として、伊万里市の方が1万円ほど家賃が安いとの説明があったが、なぜ伊万里市の方が安いか。1万円の差は大きい。

特に若い世代が出ていくということで、何とかならないのか。

(D委員)

松浦市は最近になって建設された賃貸住宅が多く、伊万里市は以前から賃貸住宅が多くあって、築年数が経過していることから、家賃を下げないと入居してもらえない。そういったバランスがある。

家賃が5万円くらいからで、駐車場2台分借りるとなれば、6万円くらい払うことになる。新婚で6万円というのは高いことから、通勤もでき、商業施設もある伊万里市に住むということになると考える。

(E委員)

家を建てる際の補助制度等は近隣と比べると松浦市のほうが充実している。

転入転出アンケートの結果では、交通の便が悪いとか買い物の環境が悪いなどなどの割合が高く、課題は分かりやすいものばかりで、あとは何をやるかということだと思う。

お年寄りの流出を止めるには、頑張っていただける皆さんを募集して、入居できる施設を運営していくとか。住宅についても、家賃を1万円分安くする方法があればいい。

ただし、買い物環境については、松浦市の規模では難しいと思う。

3. 松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略平成28年度までの事業進捗について

基本目標1 しごとの創生

～事務局説明 省略(資料1参照)～

(F 委員)

柚木川内キャンプ場の再整備について、市として具体的にどういうことをやるのか。

また、道の駅の整備拡充について、レジの問題があった。今後どういう整備を進めるのか。

(食と観光のまち推進課)

柚木川内キャンプ場の再整備については、先日、ヤマメの養殖場の整備と併せて、キャンプ場の再整備についての検討会を一緒にさせていただいた。来年度の予算要求を行う予定であるが、現在検討中。

(F 委員)

柚木川内の仲間で、ヤマメの釣り堀と養殖場の整備をやっている。

この事業は、柚木川内キャンプ場の再整備とあわせて、地方創生に係る事業として、もう少し松浦市にも前向きに考えていただきたい。

(事務局)

柚木川内キャンプ場の再整備とヤマメの釣り堀をあわせてやっていくということについては、財政サイドとも協議しながら、交付金の活用も検討したい。

(議長)

交流人口の拡大によって、新たな仕事の創生につなげていくというのが目的であるため、そういうところを目指して、交流人口の拡大を図っていただきたい。

道の駅については、昨年か一昨年に新しいレジに更新した。整備拡充ということでは、背後の遊休地については、陸上養殖をするために埋め立てられたものであるが、そこを活用できないかという検討は続けている。

(G 委員)

道の駅の整備拡充について、松浦には資料館とか博物館といった松浦市をアピールするような施設が少ないので、道の駅にそういう施設の整備も検討してみてもどうか。

(議長)

新たな箱物というのは造ったあとの維持管理が大変であるため、慎重に検討していかなければならないが、そういった施設の必要性は感じている。

基本目標 2 ひとの創生

～事務局説明 省略（資料1参照）～

（議長）

子育て支援につながるようなご意見があれば。

（G委員）

医療費助成が高校生までというのは他にはない。全国的にアピールしたほうがいい。

個人的な意見として、認定こども園に預けているが、7時30分から18時30分までしか預かってもらえない。その時間帯を例えば6時30分から19時までとか、もう少し長くしてもらえると助かる。

また、台風などで学校が休みになると、同時に放課後児童クラブも休みになる。台風が来ても児童クラブだけは開けておいて欲しい。

（子育て・こども課）

医療費助成についての情報発信について、市内の方に対しては市報のほか、対象世帯には個別に通知を送付。市外の方に対しては、パンフレットを作成し、福岡事務所を通じての配布や福岡のラジオなどでもPRしている。

（議長）

市内外に、さらに広めていけるような方法を検討したい。

（F委員）

子どもの預かり方についての意見には賛成である。

地域の公民館や学校は避難所にもなっている。誰が子どもをみるかという問題はありますが、検討していただいて、学校で預かるほうが安全ではないか。

（議長）

何か方策がないか、今後検討していきたい。

（H委員）

地元就職の方の奨学金制度というのは知らなかったが、どういう内容なのか説明してほしい。

（教育総務課）

地元就職された方に貸し付けを行っている奨学金について、返還を一部免

除するなどの制度を作れないかと国、県などの動向を見ながら検討をしてきたが、今回、日本育英会の方から給付型という考えも示されているので、今後の動きを見ながら制度設計について検討していきたい。

(E委員)

会議などに出ると情報を得ることができるが、広報が足りていないと感じる。見てもらうところを探すことも必要だと思う。今までやっていないことをやらなきゃ来ない。

実績がないものがあるが、やらないのか、やっていないのか、そこら辺がよくわからない。

(議長)

平成28年度、松高志願者は定員を超えた。着々と成果がでてきている。行政からの支援だけでなく、学校の努力も十分あっての結果だと思う。

松高の生徒を増やし、一人でも多く松高で学んでいただいて、松高での3年間で、郷土への愛着を持っていただいて、松浦に戻ってくるきっかけにもなると思う。そういう意味でも松高に対する支援は今後やらなければならないと考えている。

(C委員)

いろんな取組みの成果であり、市の財政面での支援が一番の要因であるが、それ以外の部分での支援も含めて市からの支援は大きい。

本校に入れば、進学者以外は、ほとんどが地元就職する。郷土愛というのも強まっていると思う。

今年度からは「まつナビ」も開始し、市と連携し、松浦市の課題に対する解決策を生徒と考える取組みということをしている。そういった取組みを通じて、松浦市に戻ってくる生徒が増えればと思っている。

ただ、今年度の中学3年生は平成28年度よりも50名少ないことから、危機感を持っている。こういった取組みの成果が一過性のものにならないように頑張っていくので、ご支援のほどよろしく願いしたい。

(議長)

移住戦略を推進することは、人口減少を食い止める大きな要素と考える。

こういったものがあれば戻ってきやすいんじゃないかとか、こういった部分が足りないんじゃないかというご意見があれば。

(I 委員)

島に住んでいるので、交通が一番。

結婚を機に2名は若い者が島から出た。他の人からも出たいという声も聞こえる。出ていこうという人がいることは心配だが、どうしようもできない。

(議長)

逆に帰ってきたいという声は。

(I 委員)

年をとったら戻りたいという声はあるが、漁業も不漁でキツイ状態。戻ってきても仕事がない。

青島〇が軌道に乗ればと期待している。そうすれば、結婚して島に来られた女性も仕事ができるようになる。

(議長)

水産の切り口からの意見は。

(J 委員)

水産ということではないが、姉の子が作業療法士の資格をとってから松浦に戻りたいと考えている。そういう資格は市外でないととれないことから、そういう地元に戻ってくる人のための支援、奨学金制度ができないのか。

(議長)

松高支援として資格取得のための受験費に対して一部を助成するというものはあるが、現状では市民向けの助成となっているので、そのあたりをクリアできるのかということもある。

農業という立場からの意見は。

(K 委員)

青年就農給付金をもらえる場合もあるが、非農家のIターン者は自己資金だけでなんでもやらなければならない、大変。リース事業などがあればいいと思うし、非農家さんの新規就農についての支援があればいいと思う。

(農林課)

新規就農者に対しては、国の制度として年150万円を5年間助成するというものがあり、それ以前の準備型というのも2年間ある。新規就農の方は、そういったものを活用しながらやられている。

農林課に相談していただければ、他の制度等も紹介しながら進めていきたい。

(I 委員)

水産も同様の支援があるのか。大阪から来られた方がいる。

(水産課)

水産にもあり、利用されている。また、教える方に対する講師料などもある。

基本目標 3 まちの創生

～事務局説明 省略(資料1参照)～

(D 委員)

市内にどれだけ空き家があるかというのは周知されていないと思う。

家賃が高いというところも、空き家を活用することで安くすることができれば、双方がWIN・WINという形になると思うので、情報をどんどん市内外に出していくべきだと思う。

(議長)

空き家バンクを始めたが、なかなか物件が増えない。そういう物件があれば登録してもらえるよう、市内外を問わず周知していきたい。

高速ブロードバンド普及率が76%となっているが、光回線については遅れている地域であり、こういった形でしていくか、通信事業者を使うのか、公共でやるのか、そういった具体的な敷設検討に入っていくということも含めて計画を策定中である。

(H 委員)

空き家、空き店舗については、空き家や空き店舗になってしまった後では、その人がいないので、登録も何もない。そうなる前にそういう認識をもってもらえるような取組みが重要だと思う。地区説明会などを開催してそういう認識をもってもらえる必要がある。

(都市計画課)

全体の区長が集まったときになどに周知をしたい。

空き家の活用がすすまない理由として、仏壇があることがあげられる。

他の成功されている自治体も参考にしながら進めたい。

(議長)

全体を通しての意見は。

(L委員)

初めて参加したが、全体を通して評価の指標としては分かりやすい。

ただし、具体的な事業について、その事業についてどこまでやりましたものもあればもっと分かりやすい。指標としてはゼロでも、ここまではできているということはあると思う。

(M委員)

全体的にはうまくいっているという感じを受けている。

銀行の立場として、新規販路開拓やクラウドファンディングの活用による資金集め、また、空き家の解体ローンなど、そういったものを活用も検討してもらいたい。

(N委員)

今年の4月から松浦に赴任した。

移住戦略について、松浦市を選んだ理由についての指標の実績が非常に少ない。どうしてそうなったのか分析し提示いただければ、そこからお話できることもあると思う。

効果的な市のPRとしては、新聞記者が記事を書くときに気にしているのは、読者にお知らせするため、分かりやすさだと思う。医療費助成にかかる分であれば、県内で平均いくらかかっているのか、年間いくらくらいお得なのかなど、分かりやすい指標を示してもらえば記事にしやすい。市のPRには、僕らも巻き込んでいただけて使ってもらっていい。

4. 地方創生交付金活用事業について

～事務局（担当課）説明 省略（地方創生交付金活用事業参照）～

《意見等なし・地方創生交付金活用として効果的事業として評価》

□閉会